

## インド石窟寺院の構造

### 石窟寺院の一般的な構造とデザイン上の特徴

金沢大学 矢口直道

## 1. 石窟の紹介

### 1-1. 造営時期による分類：前期窟と後期窟

#### 前期窟

- ・ (アーシビカー教)
  - バラールバル丘：ローマス・リシ窟
- ・ 仏教窟
  - バージャー (玄武岩 soft Bssalt)
  - カールラー (玄武岩)
  - コーンダネー (玄武岩)
  - ピタルコーラ (玄武岩)
  - アジャンター (玄武岩)
  - コーンディブテー (ラテライト)

#### 後期窟

- ・ 仏教窟
  - アジャンター (玄武岩)：後述
- ・ ヒンドゥー教窟
  - エレファンタ：玄武岩 hard basalt
  - バーダーミー：砂岩
- ・ 仏教、ヒンドゥー教、ジャイナ教
  - エローラ (玄武岩)

### 1-2. 機能による分類 (仏教窟)

チャイティヤ (祠堂窟)：Ajanta Cave 26

ストゥーパを安置：仏舎利を納める施設

cf.ストゥーパ→卒塔婆→塔 (ストゥーパの伝播：インド→チベット→唐→日本)

ヴィハーラ (僧坊窟)：Ajanta Cave 1 Cave 16

## 2. 石窟の造営：アジャンターを例に

ファサードの確保 (Cave 23A)

前庭 Cave 28

前から奥へ：正面廊から広間 Cave 5, Cave 24

上から下へ：天井、壁、床 Cave 6L, Cave 6U

細部の仕上げ、彩色：Cave 1

## 3. 造形上の特徴：岩盤を削り抜いて造営することの制約と自由

制約：

- ・ 設計変更、増改築の制限
  - 設計変更の例

Ajanta Cave 11：仏殿の付加、僧坊の配置転換：右壁→正面廊両端

Ajanta Cave 4：天井高の増高

・異なるギルドによる制作（分業の法則）

現在のような業態による分業ではなく、制作範囲による分業

施主：僧団（サンガ）：職人集団

main door (cave17, cave14)

台輪 cave26

自由：

・構造体系：力学を無視した造形：木造と石造、さらに壁画装飾の組合せ

Ajanta Cave 16: 天井の大梁、小梁を彫刻で立体的に表現：持送りの矮人像（彫刻）

Ajanta Cave 20: 正面廊の大梁、小梁（修復）

Ajanta Cave 17: 正面廊、側廊の持送りの矮人像（絵画）

・手抜き

Ajanta Cave 1: 彫刻：光の当たるよく見えるところ／絵画：暗いところ

Ajanta Cave 2: 柱頭

Ajanta Cave 26: 柱身

起源：屋外の施設をコピー

もともと正確に模倣していた→硬い岩盤内に設けた穴なので、めったなことでは壊れない

→石窟独自の省略

石で難しいところは木材で作る

壊したところは木で修復し漆喰を塗って顔料で色をつける

アジャンターの場合

彩色はテンペラ画法（ニカワなどの接着剤で顔料を定着させる）

鉱物（青：ラピスラズリが特徴的）



アジャンター 17窟仏殿



アジャンター1窟内観